

令和 7 年度保護者アンケート 集計結果報告書

令和 8 年 1 月

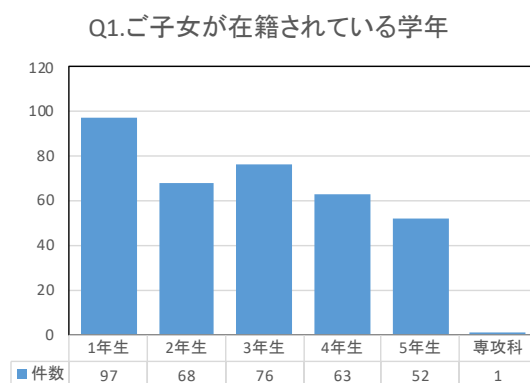
苫小牧工業高等専門学校

I. 調査の概要

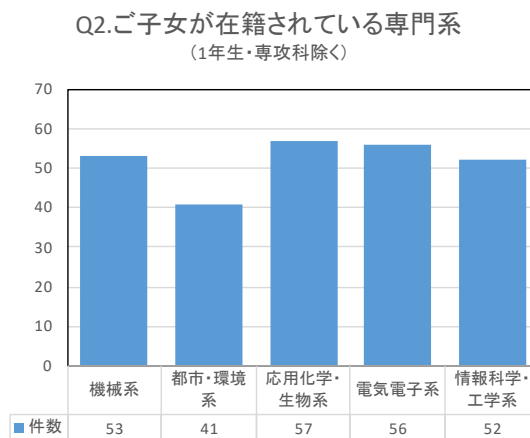
- ① 実施時期 : 令和7年10月26日(金)～11月30日(日)
- ② 調査方法 : Microsoft Forms によるオンライン調査
- ③ 対象 : 苫小牧工業高等専門学校在学保護者 1051 件
- ④ 回答数 : 357 件 (回収率: 34.0%)
- ⑤ 回答者内訳:

子女の学年・専門系

Q1. ご子女が在籍されている学年についてお答えください。



Q2. ご子女が在籍されている専門系についてお答えください。



II. 調査結果の要約

1. 本校に対する印象

- 教育活動 (Q3)： 全体の約 78% (277 名) が肯定的に評価している。特に 1 年生および 3 年生の満足度が高い傾向にある。一方、4 年生では一部に否定的な意見が見られ、専門系別では応用化学生物系の評価が特に高くなっている。
- 就職・進路指導 (Q4)： 全体の約 63% (225 名) が満足しているが、低学年では「わからない」という回答が目立つ。一方、卒業を控えた 5 年生では約 79% が満足と回答しており、進路が具体化するにつれて高く評価される傾向にある。
- 課外活動・地域貢献・国際交流 (Q5～Q7)： これらの項目で満足している層は 4 割から 5 割程度であり、「普通」や「わからない」といった保留の回答が多い。不満は少ないものの、活動内容の認知度に課題があることが推察される。
- 入学への満足度 (Q8)： 本調査で最も評価が高く、約 93% (331 名) の保護者が「満足」以上と回答している。学年や専門系を問わず、本校を選択したこと自体には極めて高い評価を得ている。

2. 本校からの情報発信について

- 情報へのアクセス (Q9)： 「配布された案内文書」(281 名) が依然として最大の情報源であるが、SNS やホームページなどのデジタル媒体も広く利用されている。
- 情報公開の満足度 (Q10)： 約 51% が満足しているが、同数の 141 名が「普通」と回答しており、内容の充実や利便性向上への期待が示されている。
- 受けたい情報の種類 (Q11)： 「就職・進路状況」へのニーズが 300 名と圧倒的に多く、次いで教育の取組状況や成績に関する情報が求められている。

3. 本校として強化すべき事項 (Q12)

今後特に注力すべき事項として、以下の 3 点が強く求められている。

1. 専門教育 (245 名)： 高度な技術・知識の習得。
2. 語学・コミュニケーション教育 (212 名)： 社会で活躍するための発信力・調整力。
3. 進路支援 (180 名)： キャリア形成に対する具体的なサポート。

4. アンケートから見た本校の強みと弱みについて

【本校の強み】

- 極めて高い入学満足度 保護者の約 93%が「満足」以上と回答しており、学年や専門系を問わず、本校を選択したことへの信頼は定着している。特に応用化学・生物系や情報科学・工学系、および最終学年である 5 年生においてその傾向が顕著である。
- 進路確定時における支援 低学年では活動内容が十分に浸透していない側面があるものの、5 年生の約 79%が就職・進路指導に満足している。卒業を控えた段階で高い評価を得ていることは、実効性のある進路支援が機能していることを示している。
- 専門教育への信頼 教育活動全体に対して約 78%が肯定的であり、特に本校の主軸である専門教育を重視・支持する層が非常に多いことが、教育基盤の強みとなっている。

【本校の弱み・課題】

- 課外活動、地域貢献、国際交流において、否定的な意見は少ないものの、「わからない」や「普通」とする回答が 2 割から 4 割近くに達している。学校側の支援や取り組みが保護者に十分に可視化されていない点は明確な課題である。
- 情報発信のデジタル化と内容の充実 情報源が依然として「配布された案内文書」という紙媒体に依存しており（281 名）、ホームページ等のデジタル媒体の満足度は「普通」とする層が約 4 割（141 名）存在する。特に「就職・進路状況」や「学生の成績」といった具体的かつ速報性の高い情報提供のさらなる充実が求められている。

総括

本校は専門技能の育成機関として厚い信頼を得ている。保護者からは、専門性の深化に加え、それを社会で活用するためのコミュニケーション能力向上や、進路支援のさらなる強化が期待されている。また、低学年の段階では進路支援の実感を得にくく不安を感じるケースも見受けられるが、学年が進行し進路が具体化するにつれて教育の質への理解が深まり、最終的には本校の教育方針に対して高い納得度と満足感が得られている。一方、課外活動や情報公開、国際交流といった活動において改善の余地がある。今後は、強みである専門教育の質を維持しつつ、課題である「活動の可視化」や「コミュニケーション教育の強化」に取り組むことで、保護者とのより強固な信頼関係を構築することが期待される。

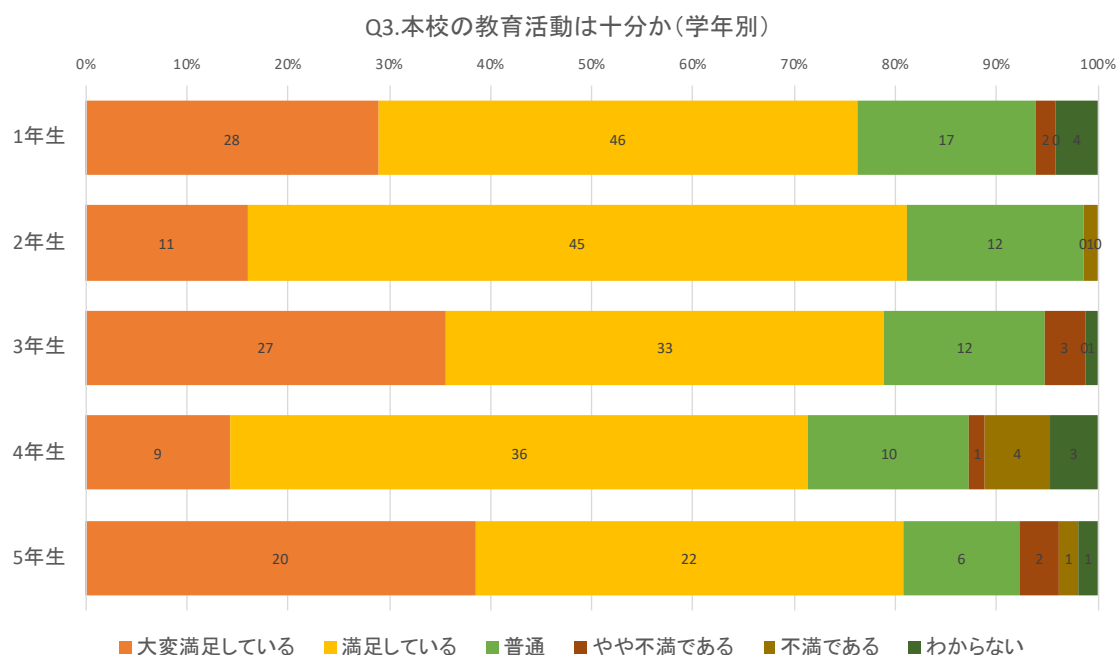
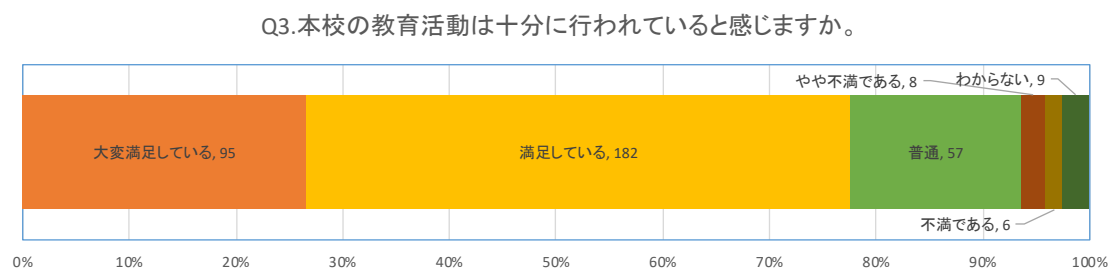
Ⅲ. 調査集計結果

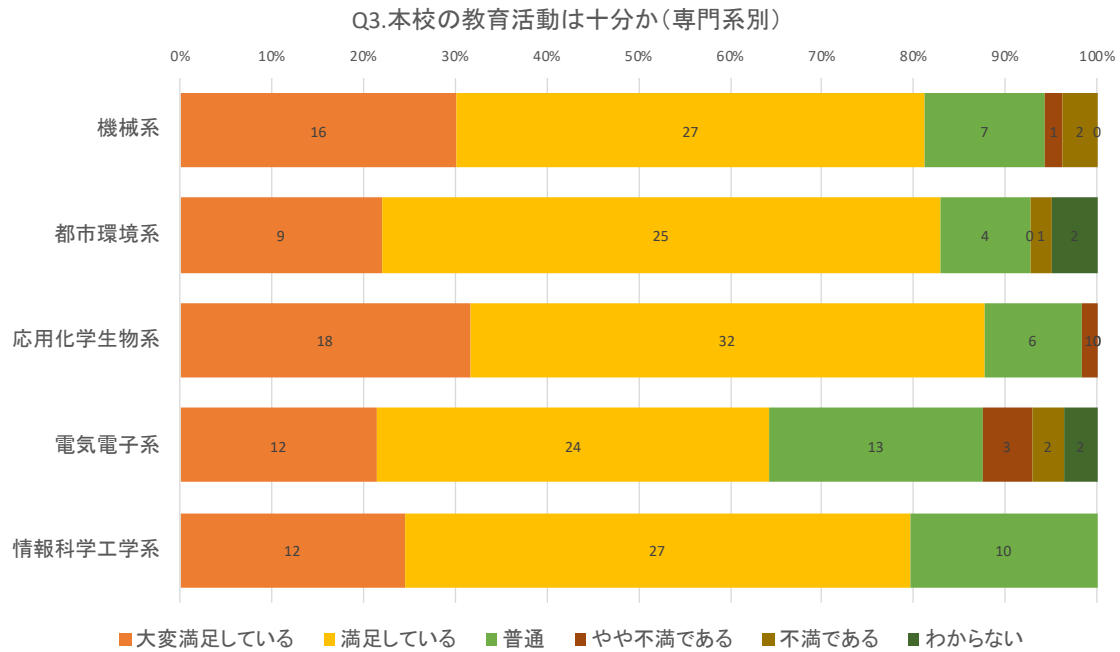
1. 本校に対する印象

(1) 本校の教育活動に関する印象

教育活動については、「大変満足している」(95 名)と「満足している」(182 名)を合わせて、約 78%の保護者が肯定的に評価している。学年別では 1 年生や 3 年生の満足度が高い一方で、4 年生では「不満」と回答した保護者が 4 名見られ、他の学年より評価が分かれる傾向にある。専門系別では、応用化学生物系の満足度が特に高い。

Q3. 本校の教育活動は十分に行われていると感じますか。

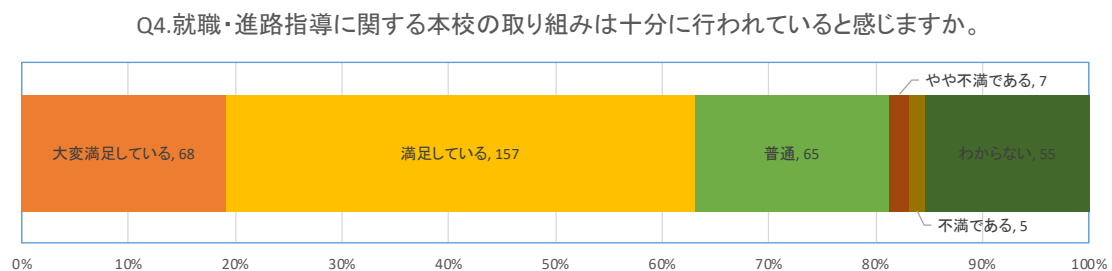


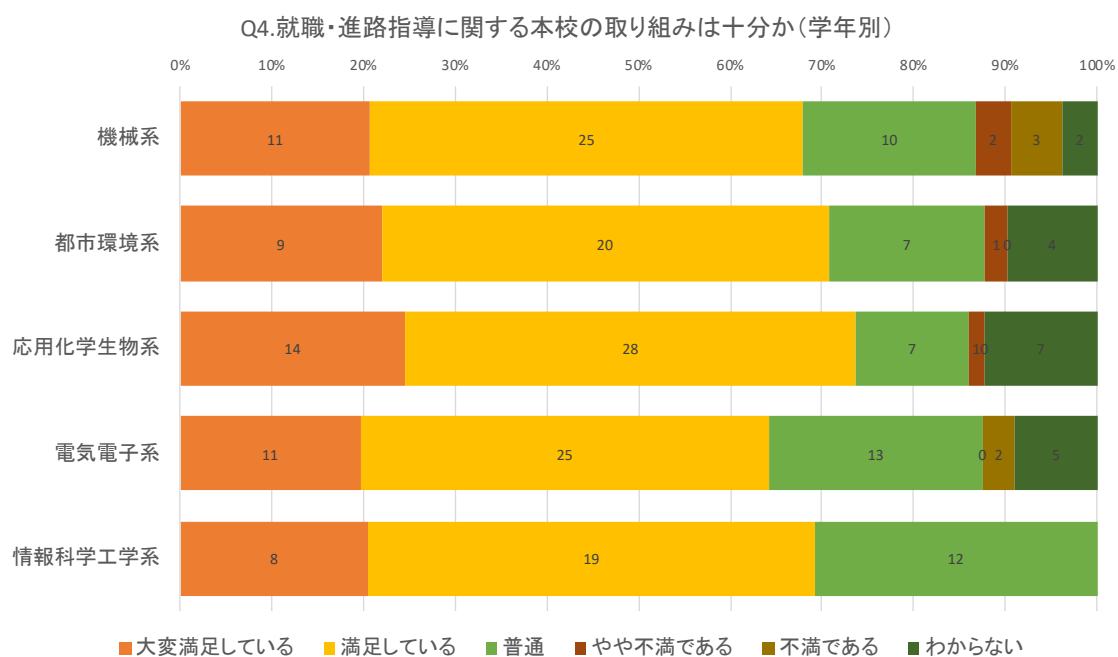
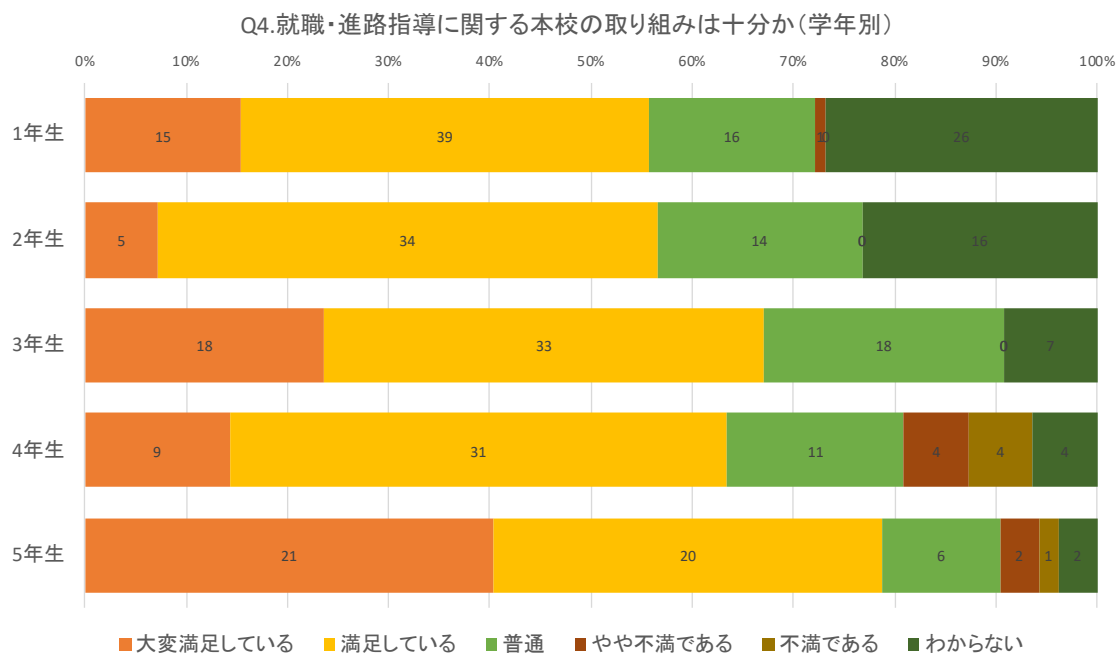


(2) 本校の就職・進路指導に対する取り組み

全体では約 63% (225 名) が満足していますが、「わからない」という回答も 15% (55 名) 存在する。この「わからない」という回答は、低学年 (1 年生 : 26 名、2 年生 : 16 名) に集中しており、進路が具体化していない段階での認知度の低さが伺える。一方で、5 年生では約 79% (41 名) が満足と答えており、最終的な支援内容は高く評価されている。

Q4. 就職・進路指導に関する本校の取り組みは十分に行われていると感じますか。



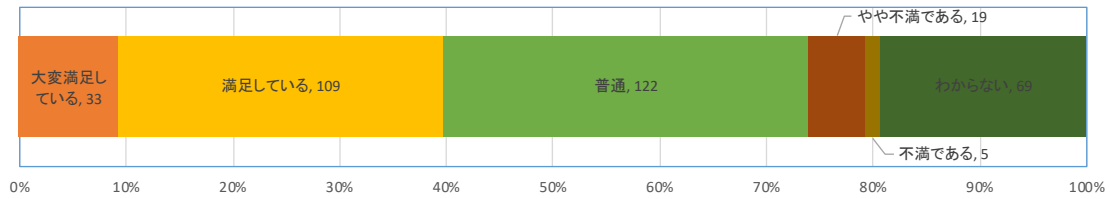


(3) 本校の課外活動（クラブ等）に関する支援や援助

満足している層（142名）が一定数いる一方で、「普通」（122名）や「わからない」（69名）という回答が多く、評価が中立的または保留されている。教育活動や進路指導と比較すると、学校側の支援内容が保護者に見えにくい、あるいは関心が分散している可能性がある。

Q5. 課外活動（クラブ等）に関する本校の支援や援助は十分に行われていると感じますか。

Q5.課外活動に関する本校の支援や援助は十分に行われていると感じますか。

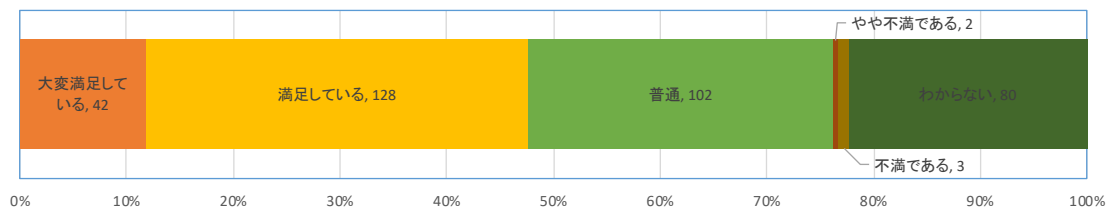


(4) 本校の地域貢献や社会活動への取り組み

肯定的な評価（170 名）が半数近くを占めるものの、「わからない」との回答が約 22%（80 名）にのぼる。不満を持つ層は極めて少ない（5 名）ことから、活動自体は認められているものの、具体的な取り組み内容の周知に課題があると言える。

Q6. 本校としての地域貢献や社会活動は十分に行われていると感じますか。

Q6.本校の地域貢献や社会活動は十分に行われていると感じますか。

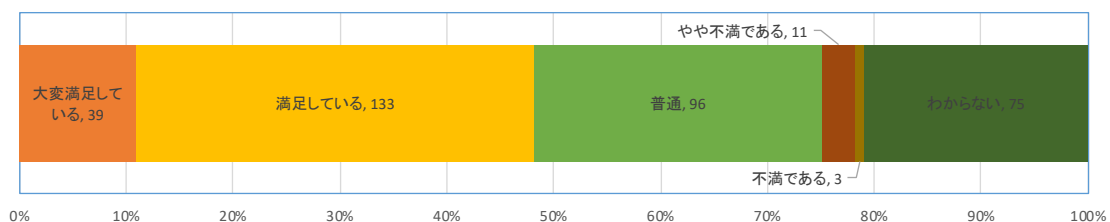


(5) 本校の国際交流に関する取り組み

満足している保護者は約 48%（172 名）です。地域貢献と同様に「わからない」（75 名）という回答が目立つが、一方で「やや不満・不満」とする回答が 14 名あり、他の活動項目（Q4～Q6）と比較して、より積極的な展開や情報発信を求める声がわずかに強い傾向にある。

Q7. 本校としての国際交流活動は十分に行われていると感じますか。

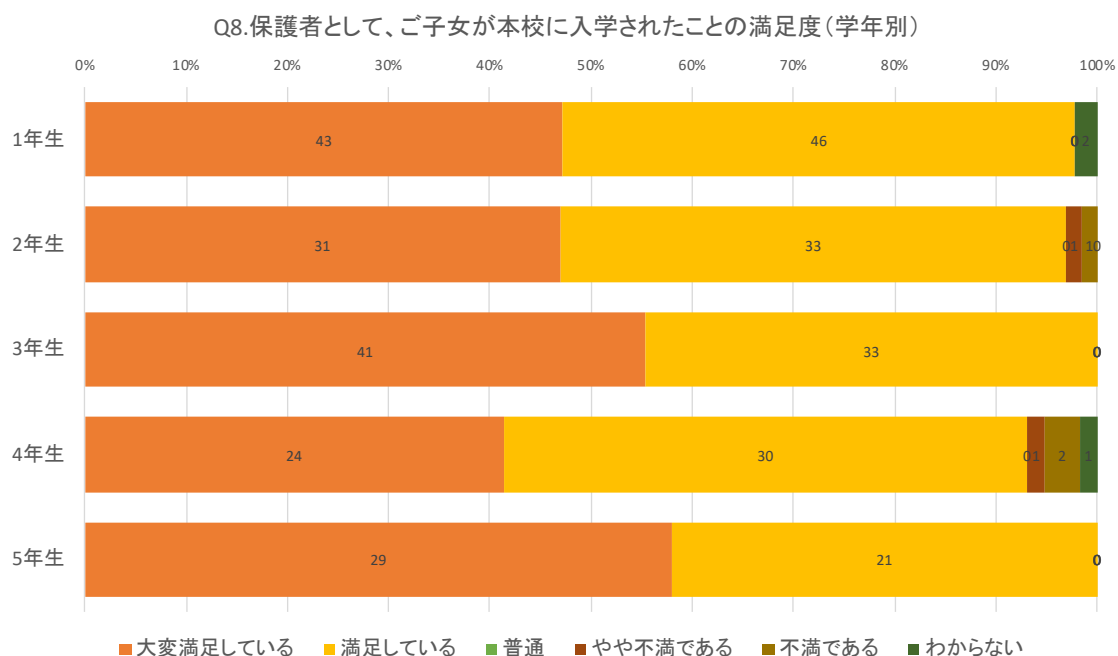
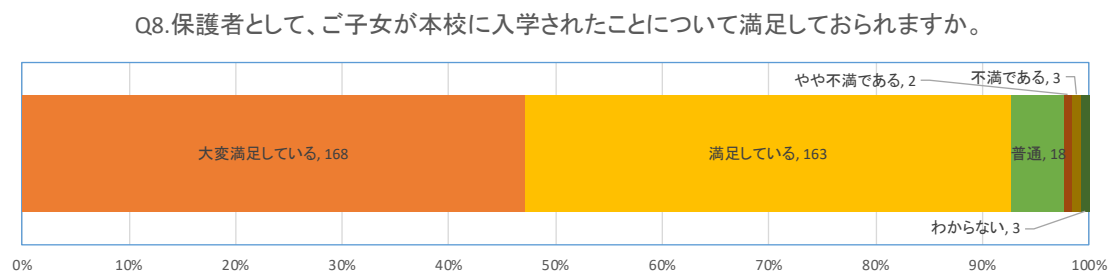
Q7.本校の国際交流活動は十分に行われていると感じますか。

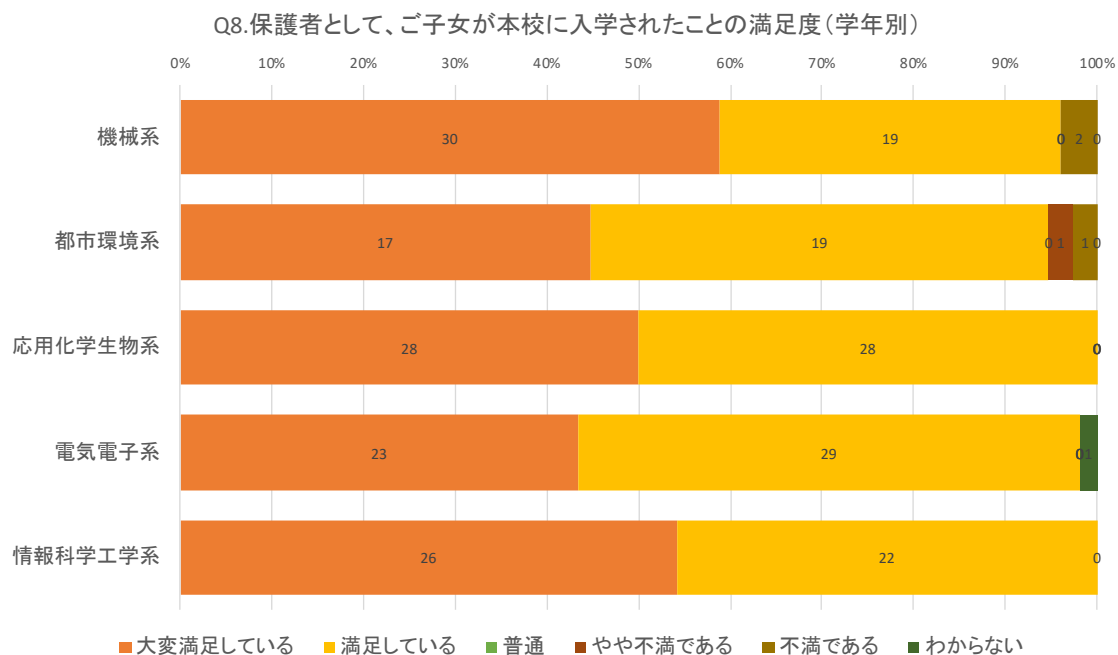


(6) 子女の本校入学への満足度

本アンケート中で最も高い評価を得ており、約 93%（331 名）が「大変満足している」または「満足している」と回答している。学年や専門系を問わず一貫して高く、特に 1 年生、3 年生、5 年生、および応用化学生物系や情報科学工学系では否定的な意見がほとんど見られていない。

Q8. 保護者として、ご子女が本校に入学されたことについて満足しておられますか。



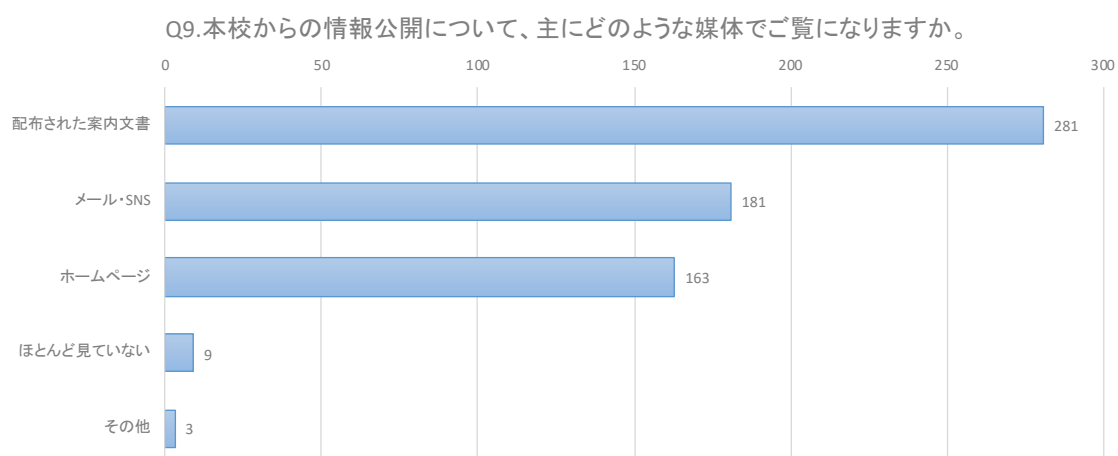


2. 本校からの情報発信について

(1) 本校からの情報へのアクセス

「配布された案内文書」が 281 名と圧倒的に多く、依然として紙媒体が主要な情報源となっている。次いで「メール・SNS」(181 名)、「ホームページ」(163 名)となっており、デジタル媒体も広く活用されているものの、現状では必ずしも十分とは言えない。

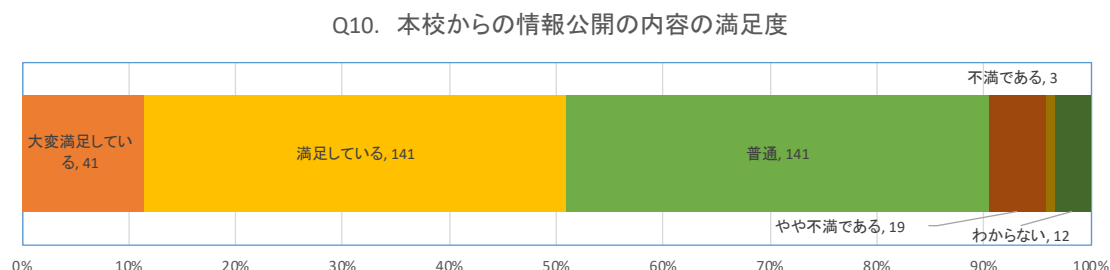
Q9.本校からの情報公開について、主にどのような媒体でご覧になりますか。(複数選択可)



(2) 本校の情報発信に関する満足度

「大変満足」（41 名）と「満足」（141 名）を合わせると過半数を超えますが、「普通」と回答した保護者も 141 名と同数存在する。現状の情報公開に大きな不備はないものの、内容の充実や利便性の向上に対して、さらなる改善の余地を感じている層が一定数いることが推察できる。

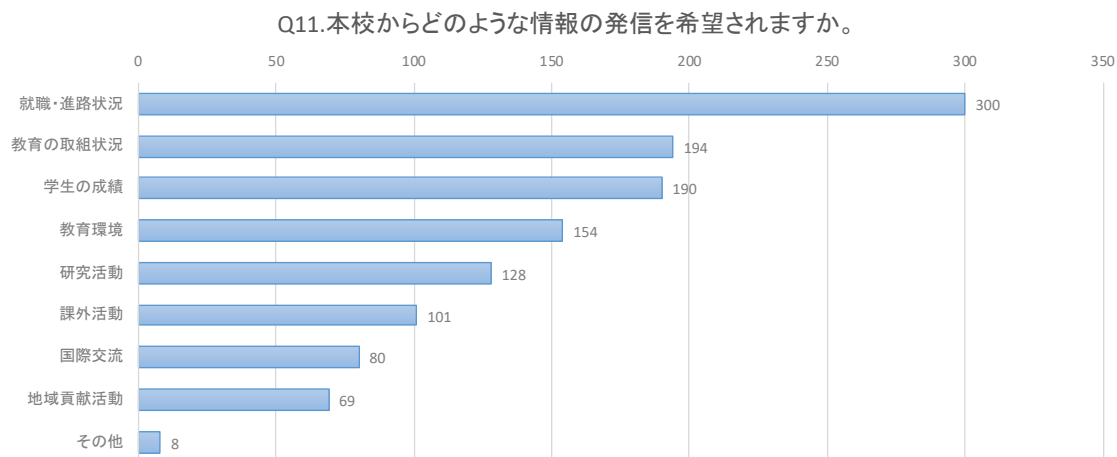
Q10.本校からの情報公開（ホームページ、各種ご案内）の内容について満足しておられますか。



(3) 本校から受けたい情報の種類

「就職・進路状況」に対するニーズが 300 名と突出して高く、次いで「教育の取組状況」（194 名）、「学生の成績」（190 名）が続いている。保護者は、学校での学習成果やその先のキャリアに直結する情報を強く求めていることが分かる。

Q11.本校からどのような情報の発信を希望されますか。（複数選択可）

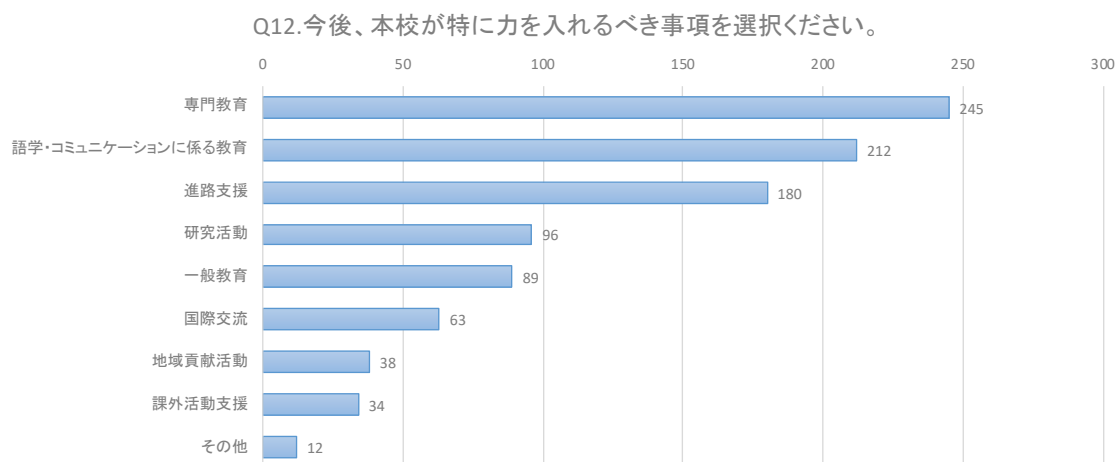


3. 保護者が考える本校として強化すべき事項

保護者が最も重視しているのは「専門教育」（245 名）であり、次いで「語学・コミュニケーションに係る教育」（212 名）、「進路支援」（180 名）となっている。これらは他の項目（研究活動：96 名、一般教育：89 名など）を大きく引き離しており、技術者としての核となる専門性と、それを社会で活かすための発信力・キャリア支援の三本柱を強化することが、本校への期待に応える鍵

となる。

Q12.今後、本校が特に力を入れるべき事項を選択ください。（複数選択可）



4. 本校に対する意見や要望

本校に対する意見や要望に関しては、53件の自由記述があった（謝意を記載されたものを除く）。大まかではあるが、便宜的に以下の10の区分に整理し、それぞれの区分について、集約した意見の内容と本校としての回答を作成し公開した。（原文については別冊を参照）

1. 学習指導と支援体制、および教育課程について（16件）
2. 保護者懇談会および進路説明会の運営について（5件）
3. 学生への生活指導と情報公開について（5件）
4. 通学バスの運行について（6件）
5. 高専祭の運営について（4件）
6. 学生生活・課外活動・校則について（3件）
7. 学生寮の住環境（給水・暖房設備）について（1件）
8. 教室・学生寮への冷房設備（エアコン）設置（3件）
9. 担任の指導および学校の対応体制について（5件）
10. 情報発信の迅速化とウェブサイトの利便性向上（5件）